

糸魚川市の出資なしでも新会社設立？

6月議会総括質疑で村山市長が示唆

6月定例議会がはじまりました。今議会の焦点は北陸新幹線開業に伴う並行在来線の**新会社の設立を今の時点で認めるかどうか**です。

新潟県並行在来線開業準備協議会の経営委員会による経営計画案策定作業が大詰めを迎えています。30年後の公共負担額（赤字を含む）が当初予想していた386億円を大きく上回る見込みと報道されています。また、新幹線開業に伴ってJRが並行在来線を経営分離することとしていた旧政府・与党合意について、民主党政権は見直すことを明らかにしています。

こうしたなかで新会社は新潟県が1億2000万円、妙高、上越、糸魚川の3市が合計3000万円を出資して設立する予定でしたが、糸魚川市議会では、「収支予測や経営計画が示されていないのに、三セク設立はさすが」（新潟日報10日付）などという声が噴出し、6月議会での出資金



新会社について質疑を行う平良木議員

関連予算の提出を見送る事態となつていきます。

9日の総括質疑では日本共産党議員団の平良木議員が登壇し、市長の見解をた

だしました。このなかでJRの運行継

続、あるいは新会社への経営参加について問われた村山市長は、「JRの関与については鳩山内閣が昨年12月においても経営分離をするという状況の中で決定を見ている。時間的には切迫しているの、次のステップを踏むためにもどうしても市民の足を守るために形として見える在来線の会社を県に立ち上げてほしいと思っている」と答えました。

また、新潟県並行在来線開業準備協議会の経営委員会が経営計画案をまとめるのを待って経営主体をどうするか決めてもいいのではないかと質疑に対しては、「経営委員会もいま詰めている内容が乾くのは7月だ。（新会社が経営計画を策定する）具体的な作業に入った段階で大きく変更するし、また、経営委員会の発表そのものすべてが解決するわけではない。内容の中には新会社にゆだねるといのがたくさんある」と突っぱねました。

糸魚川市が新会社に参加するための予算提案をしていないなかで、新会社をどうするかについては市長の答弁が注目されました。

村山市長は、「糸魚川市さんの事情もいろいろある。議論しながら議会に諮って物事を進めていかれることだと思ふ。上越市としては会社が立ち上がることによつて、議論する受け皿が出来ると考えている。一緒にスタートできなかったとしても、会社の設立についても負担の割合についても一定の理解をいただいているので、今後、積極的な議論がされて新しい会社について理解がされるものと思つている」と答えて、糸魚川市の出資がないなかでも新会社の設



【ミズタビラコ】ムラサキ科の多年草。漢字では「水田平子」と書きます。吉川区山間部の溪流沿いの湿地に咲いていました。花の大きさは2～3ミリ。花の色は淡青紫色でとてもかわいい。

立がありうることを示唆しました。この発言は今後大きな波紋を呼ぶことと思います。

3市議会対策協議会の緊急開催を

日本共産党上越市議団は7日、滝沢議長に、「上越地域3市並行在来線対策協議会」の緊急開催を申し入れました。これは3市議会が足並みをそろえ、並行在来線の経営について協議する必要がありますからです。滝沢議長は検討を約束しました。



シリーズ 上越市内の橋

第41回 黒川橋

「黒川橋」と書いて「くろかわばし」と読みます。柿崎川の支流、黒川にかかった橋のひとつです。主要地方道柿崎牧線の柿

崎区地内にあります。

この橋で思い出すのは、中越沖地震です。すぐそばの水道管橋の管が破損し、水が噴き出しました。この時、吉川区への送水はできなくなりました。

橋長は約32m。竣工は1973年（昭和48年）の3月です。